



(永平寺寺・大野)

本遺跡の概要についてはすでに『木簡研究』第六号に紹介されており、今回報告する第五二次調査地は、前回報告の第四六次調査地の西方にあたり、第五〇次調査地をなにはさんでそれぞれ接している。字吉野本地係約一九三〇m²を対象として調査がなされた。調査区内は、検出された溝等の遺構によつて九区画の屋敷に分けられ、そのひとつ

の屋敷地内から木簡一点が

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

1 所在地 福井市城戸ノ内町
2 調査期間 一九八五年（昭60）八月～一月
3 発掘機関 福井県立朝倉氏遺跡資料館

4 調査担当者 小野正敏・岩田 隆・吉岡泰英

5 遺跡の種類 城館・都市跡

6 遺跡の年代 一五世紀後半～一六世紀後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

出土した。この屋敷は幅約二・七mの道路に面し、土塁と門を持つ大規模なものであるが、一部は調査区外となり全体の規模は未詳である。屋敷内には礎石建物二棟が検出され、そのうちの一棟は南北六・七m、東西五・八mで、建物の東北部に〇・九m×二・七mの張り出しを持つ。木簡は、この建物跡から約三m東南に離れたところの建物跡検出面より下層の炭混り土のなかから出土した（次頁略図参照）。尚、この木簡の出土地について『概報』では区画五二一一六としているが、図示している場所があるので訂正する。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「くお せん」

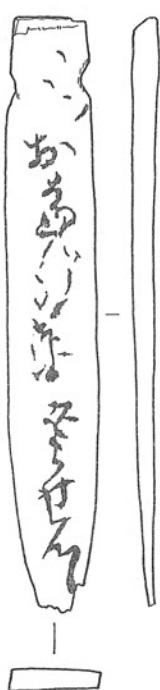
(149)×22×6 033

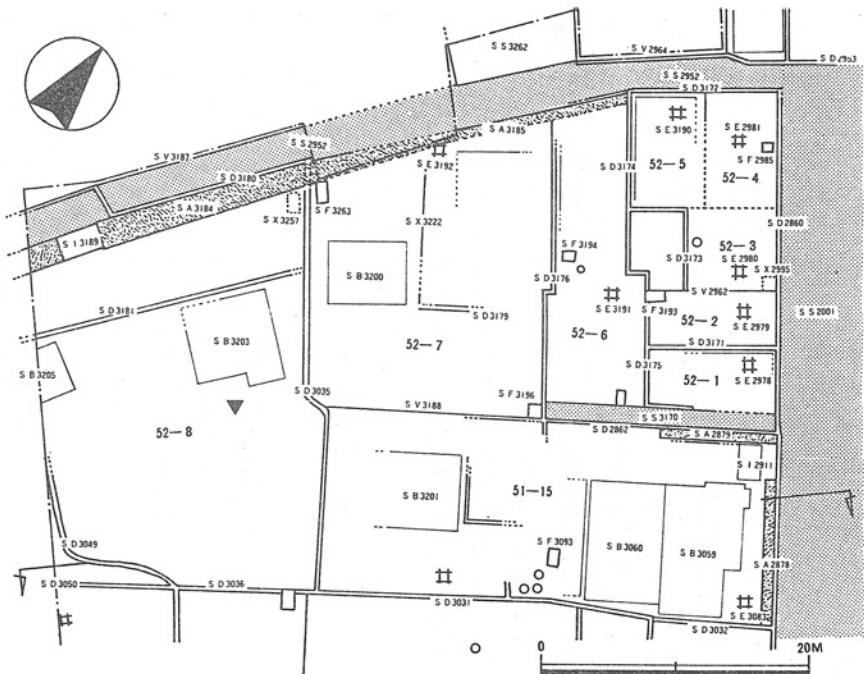
9 関係文献

福井県立朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡XVII 昭和

60年度発掘調査整備事業概報』（一九八六年）

（佐藤圭）





第52次調査区略図・木簡出土地点（概報挿図7）

木簡研究 第六号

卷頭言——記紀批判と木簡——

直木孝次郎

五言古

概要 平城宮・京跡 平城宮一 条大路・左京二 条一 坪十二 坪
城京左京八条三坊十一坪 東大寺仏餉屋下層遺構 藤原宮跡 長

岡宮・京跡 平安京右京八条二坊 定山遺跡 水走遺跡 津堂遺
跡 高宮遺跡 池上・曾根遺跡 万町北遺跡 山垣遺跡 福成寺
遺跡 沢田宮谷遺跡 長尾沖田遺跡 小川城遺跡 道場田遺跡

宮久保遺跡 鹿島湖岸北部条里遺跡 東光寺遺跡 北大萱遺跡
篠原遺跡 七番田遺跡 里呂呂遺跡 下野國守多賀城跡

鶴脇遺跡	北和佐遺跡	鰐沼東口遺跡	下野田所跡	多賀城跡
一乗谷朝倉氏遺跡	近岡遺跡	曾根遺跡	前田遺跡	美作国府跡

草戸千軒町遺跡 尾道遺跡 芳原城跡 大宰府跡

一九七七年以前出土の木簡（六）

平城宮跡（第三二次）

平安時代の田記にみえる木簡

日記

『木簡研究』一〇五号総目次

頒価 三五〇〇円
平四〇〇円